

修理工事こぼれ話⑳ 拝殿前方の狛犬

現在阿蘇神社では、私が関わっている楼門の修理工事のほか、拝殿・翼廊・神饌所・神輿庫の新築・修理工事が並行して行われています。工事中は足場をかけたリ資材を搬入したりする関係で、工事をスムーズに行えるよう、工事対象の建物の近くにあるものを仮に移動させたり、樹木ですと枝を剪定したりします。拝殿の前方にあった石造の狛犬（こまいぬ）も、3年前の拝殿解体に先立ち移動されました。しかしこの狛犬が移動するのは今回が初めてではありません。古写真で追っていくと、どのように移動していたかが判明しました。今回はその狛犬について紹介します。



拝殿 正面

赤い丸が狛犬。平成 23 年（2011）撮影。

1. 狛犬の概要

この狛犬は、石積みの基壇（きだん）の上に二段の台座があり、その上に狛犬が載っています。台座の側面には、世話人や設計者、石工や奉納者の方々の名前や、「大正十三年十一月建設」と造られた年号が彫られています。この狛犬のものと思われる設計図も残されています。

狛犬は参考文献によると、唐獅子（からじし）と同じくライオンがモデルの霊獣で、神域の守護獣です。一対で置かれる場合は、それぞれ「阿吽」の「阿」と「吽」の口の形をしています。本来は、口の形が「阿」のほうが唐獅子で、「吽」のほうが狛犬であるようです。図像的には、角があるのが狛犬で、ないのが唐獅子とことなので、その特徴に当てはめると、阿蘇神社のものは両方とも唐獅子です。設計図には「獅子狛」と表記されています。



正面右側の狛犬

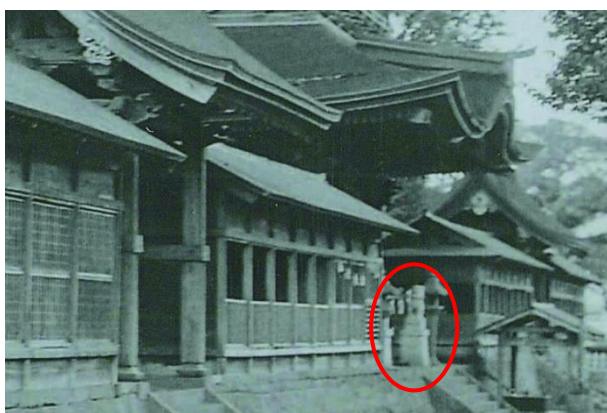
口の形は「阿」。

両方の狛犬とも角はありません。

2. 楼門正面時代

この狛犬は、当初は楼門の正面にあったようです。昭和2～6年（1927～1931）頃の参道を写したものと思われる古写真を見ると、楼門正面に石灯籠とともに現在のものと同じ形状の狛犬が写っています。設計図には設置場所として石灯籠より廻廊側が示されていますが、実施では石灯籠より楼門内側に変更されたようです。

昭和6年（1931）に熊本県で陸軍の大演習があり、その時に熊本県に来られていた昭和天皇陛下が阿蘇神社にもご参拝されています。その時の古写真を見ると狛犬や石灯籠は写っておらず、どこかに移動されているようです。昭和天皇陛下のご参拝に合わせて、楼門正面をスッキリさせた可能性が考えられます。



昭和2～6年（1927～1931）頃の古写真
赤い丸が狛犬。



昭和6年（1931）昭和天皇陛下ご参拝時の古写真
狛犬と石灯籠が写真に写っていません。

3. 参道北側時代

昭和6年（1931）以降の古写真を見ていっても、楼門正面に狛犬が戻ってくることはありませんでした（ちなみに石灯籠もです）。それではどこに移動されたのでしょうか。

昭和6～15年（1931～1940）頃の参道を写したと思われる古写真を見ると、参道の北鳥居手前に狛犬が写っています。写真の奥に写っていますので詳細な形状は分かりませんが、楼門前にあったものと同じ狛犬とみなして良さそうです。



昭和6～15年（1931～1940）頃の古写真
赤い丸が狛犬。（公募による提供写真）



昭和6～15年（1931～1940）頃の古写真
赤い丸が狛犬。（公募による提供写真）

そして、昭和 37～52 年（1962～1977）頃と思われる古写真を見ると、この写真にも北鳥居の近くに狛犬が写っています。しかし、鳥居よりも後方に写っているようにも見え、狛犬の位置が変わっているか、鳥居の位置が変わっている可能性があります。



昭和 37～52 年（1962～1977）頃の古写真
赤い丸が狛犬。

4. その後

その後、どのタイミングで拝殿の前方に移動されたのかは、この期間の古写真が集まっておらずよくわかりません。もしかしたら、もう 1 回くらい別の場所に移動されているかもしれませんが、楼門正面に造られてから少なくとも 2 回は移動して拝殿の前に行き着いたことは確かだと思います。移動した経緯は判明していませんが、移動した先々で神域の守護獣としての役目をまっとうしてきたのでしょう。

現在は、工事のため、境内の片隅に仮移動させてあります。工事が終わり、再び神域の守護獣としての日々に戻るまで、しばし静かにお休みです。



現在の狛犬

基壇と分割して保管されています。



現在の基壇